

平成26年度 水城高等学校自己評価表

目指す 学校像	○学力の向上を図り困難な社会に通用できる人材育成を目指す。
	○3点確保により、学業と部活動の両立を目指し、活力ある学校を目指す。
	○各自の個性・能力をさまざまな場で表現できる人材の育成を目指す。
	○健全な道徳観を有し、友愛の情を育み他人と協調し、社会に貢献できる人材を育成する。

昨年度の成果と課題	本年度の重点目標	重点目標	達成状況
<p>・東京大学・京都大学・東京工業大学など難関大学を含め、国公立大学・大学校合わせて149名の合格者を出した。</p> <p>・私立大学への合格者は817名となった。</p> <p>・今年度は昨年を越える国公立大学合格者を出すことを目指す。</p> <p>・部活動の一層の活性化を図り、文武両道を目指す。</p>	・授業の質の向上。	・授業アンケートの結果を指導に生かし、授業の改善・工夫に努める。	4
		・各教員が教材研究を十分に行い、全コースで質の高い授業を展開できることを実現する。	4
	・きめ細かい進路指導 ・国公立・難関私立大学への多数の合格。	・各種講演会や個別面談・LHR等をととして生徒の適正に応じたきめ細かな進路指導を行う。	4
		・模擬試験や定期試験の結果分析をし、日々の学習活動やゼミ活動に反映し学力の増進を図る。	3
	・生徒が落ち着いて学習でき、安心して学校生活が送れるような環境を整える努力をする。	・中途退学や転学の防止を目指して努力する。	4
		・通学路での交通安全指導を行い、公共の場でのマナーを身につけさせる。	4
		・自転車事故等をなくすために、交通ルール遵守を心がけさせる。	3
	・募集広報活動の推進。	・本学の教育理念に共鳴する入学者を確保するために、組織的・計画的に広報活動をする。	3
	・特別活動の活性化。	<p>・学業に励むだけでなく、部活動など課外活動に多くの生徒が参加し、充実した高校生活を送れるよう支援する。</p> <p>・清掃など奉仕活動を通して公共心を養うと共に、環境問題を考えるきっかけを与える。</p> <p>・生徒会活動や委員会活動を生徒が自主的に運営できるように働きかける。</p>	<p>・空手道部・アーチェリー部・ゴルフ部が全国大会に出場した。</p> <p>・陸上競技部男子駅伝は6年連続で全国大会に出場した。</p> <p>・軟式野球部が春季関東大会で準優勝した。</p> <p>・茨城県高校総体で女子が、全体で2年連続優勝を飾った。</p> <p>・全国高校総合文化祭・茨城総文において、吹奏楽部が文化連盟賞を、自然科学部が奨励賞を受賞した。</p> <p>・生徒会は、水戸地区の他校の生徒会と連携して懇談会やマナーアップ活動を行い、活動を広げた。</p>

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

1. 教科

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	総合評価	次年度への課題
国語	コースと連携し、生徒の基礎学力の向上を図る。	コースの独自性、特色を生かした朝の小テスト・ゼミ学習と連携し、授業時間だけではなく日常的な活動の時間を確保することにより、国語に親しみ、社会生活を送る上で十分な国語能力を身に付けさせる。	5	4	コース毎にそれぞれ生徒の実態に合った学習指導を行ってきたが、次年度はさらに他学年と連携を密にし3年間を見通した学習計画を立てる。
	生徒に家庭学習の習慣を確立させる。	年度当初に集中して授業の受け方や予習復習に関する姿勢について指導する。特に長期休業中家庭学習用テキストを有効に活用し、学習習慣の定着を図る。	4		他の教科と連携し、生徒が課されている宿題、予習の量を把握し、効果的に家庭学習に取り組ませる。
	生徒に言語活動を通じた情報処理能力を養わせる。	授業への関わりの中で多くの文章や問題に触れ、読解についてはもとより、特に自身の意見を述べる際に口頭や記述における表現を通じて、その向上を図る。	4		コース毎の実態を踏まえ、講義型授業の割合を省み、効果的なプレゼンテーションの機会設定を図る。
	生徒の理解を深めるための授業スキルの向上を図る。	公開授業・授業見学や教員間の意見交換を活発に行い、教材研究を省みることにより、生徒にあった授業のあり方を研究する。また、新採教員へのフォロー、助言を教科全体として行うことで、双方のスキルアップにつなげる。	3		効果的な公開授業の設定を図る。また、外部の講習会等にも積極的に参加する。新採教員のフォローを指導助言者任せにせず、教科内で相談しつつ進める。

地歴公民	各科目とも基礎的な知識を確実に身につけさせ、学力の向上を図る。	小テストや定期試験で生徒の理解を確認しながら、基本事項を繰り返して学習させる。家庭学習での取り組み具合をチェックして、定着させる。	4	4	小テスト・定期試験に向けた生徒の学習状況をチェックし、さらにテスト後の学習のポイントを個々の生徒に応じた確に指導することで、さらに基礎学力の定着と向上を図る。
	現代社会の出来事についての生徒の関心を高め、生徒が自ら考察したり、理解を深めようとする態度を育てる。	授業の中で、新聞やインターネットなどを活用しながら時事的なテーマや身近な問題にも触れる。生徒に課題を与え、自らそれらの問題を調べさせたり、発表させる時間を工夫する。	4		学習項目や内容を精選し、知識注入方の教員の一方的な講義に終始するのではなく、グループ学習やクラス討議など生徒自ら調べたり考える学習を積極的に取り入れる。地理では身近な地域の地形や環境を実際に観察学習する授業を取り入れる。
	歴史学習を通して、多様な歴史の見方や理解があること学ばせる。また、日本と世界の歴史を関連づけて捉えさせることで、国際社会で活躍する資質を養う。	概説的な授業だけでなく、図説や映像資料や歴史的史料を教材として与え、生徒がより興味や関心を持てるようにする。A科目とB科目の既習内容を確認させて、世界史と日本史の関連を生徒に意識させる。	4		グローバル人材の育成のために「世界史と日本史のつながり」を学習する項目をそれぞれの科目で創意工夫し、授業に取り入れる。

数学	生徒の基礎学力向上のために有効な実践を常に考え、学力向上を図る。	参考書や傍用問題集を活用し、授業中や家庭にて問題を数多く解かせる。	4	4	コース、クラス、個々の進路に応じて効果的な課外授業、補講を実施する。	
		演習させるときは、机間巡視を行い生徒が質問しやすい雰囲気を作る。	5			
		コース・レベルに合わせて、柔軟に問題レベルを変える。	5			
		模擬試験にも対応できるよう、生徒の学力層別に目標を設定し、課題を課して取り組ませる。	4			新課程になり学習内容が増加したため教科書を進めることで精一杯である。学習内容をさらに吟味していきたい。また、ゼミや補講等のさらなる活用をしていきたい。
		授業内にて小テスト等を定期的に行い、生徒の実情を常に把握する。	4			
	自主的な学習態度を身につけさせ、家庭学習を定着させる。	授業外での個別の質問を促し積極的な学習態度を促す。	4			
		課題・宿題は回収するなどの方法で必ずチェックし、やって来ない生徒には放課後残してやらせる等の指導をする。	4			
		模擬試験やテストなど必ず見直しをさせ、理解が不十分な点をチェックさせる。	4			
	生徒の学力差に応じた指導方法の実践をして、授業内容を工夫する。	模擬試験や小テストの結果、クラスや分野によって、演習中心の授業にする等の柔軟な対応をする。	4		教科書傍用の問題集、参考書等のさらなる活用を考えていきたい。	
		余力のある生徒や、理解が不十分な生徒に対しては個別にプリントを配布したり、指示をする。	3			
より良い授業実践のために、指導方法について、教科教員による校内研修会を実施する。		4				
課題・宿題を定期的に出したり、レベルに応じて個別に指示をする。	授業終了後、その時間に指導した内容の確認のための宿題を数種類出すなど工夫する。	4	今年度も校内研修会を実施できた。内容は大学入試問題を題材とするものであった。来年度は、授業法の研修を実施したいと考えている。			

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

理科	自然科学に対する関心を高める。	教科書だけでなく、時事問題との関連付けを行い、生徒の興味・関心を喚起する。	4	4	図説や新聞記事、インターネット記事を引き続き活用する。視聴覚教材も充実させ、授業で活用する。実験室前の掲示板を利用し、生徒に興味・関心を喚起する。
		観察や実験を積極的に取り入れ、イメージを捉えやすくし、探究心も養う。	3		外部の実験・観察セミナーに積極的に参加する。また、各科目において実験器具の充実を図り、授業で活用する。
	基礎学力の定着を図る。	教科書内容を理解・記憶させ、小テストや定期試験を用いてその定着を図る。	4		それぞれのコースの現状に合わせた進度を設定する。授業に問題演習を多く取り入れることで定着を図るようにする。授業担当者間の情報共有もより密にする。
		模擬試験や入試問題の演習を通じて、応用力を養う。	4		授業における学習を主とするが、ゼミなども積極的に開講し、問題演習を行う機会を増やし、応用力を養わせる。新カリキュラムに対応した問題を探る。

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

保健体育	卒業後も何らかのスポーツ種目を継続できるようにする。	スポーツ活動を通し、スポーツをした時の爽快感やできた時の達成感を感じられる授業を展開する。様々なスポーツ種目を授業の中で取り入れ、自分の好きなスポーツ種目を見つけられるようにする。	5	4	様々なスポーツ種目を指導計画で導入し、生徒のスポーツに対する興味関心を高めることが出来た。今後は、ニュースポーツなども授業に取り入れ、さらに生徒のスポーツに対する興味関心を高められるようにして行きたい。
	保健の授業で習得した知識を自分の生活の中で実践できるようにする。	実生活の中で起きている話題を授業に取り入れ、自分の生活と結びつけて知識を得られるようにする。実習などを多く取り入れ、生徒が興味関心を得られるような授業を展開する。	5		新聞記事・インターネット・DVDなどを利用し、生徒の保健に対する知識理解を深められた。実習が少ないため、来年度以降は実習をさらに増やし、生徒の興味関心を高めたい。
	用具や施設を大切に扱う気持ちを養えるようにする。	授業で使用する道具や施設の準備や片づけをきちんとできるようにし、道具や施設に対する愛着を持てるようにする。	4		生徒が進んで授業の準備や片づけをする姿が頻繁に見られた。しかし、ボールが出しっぱなしになっていることや、用具の破損があるなどまだまだ施設や用具の管理が出来ていない部分があるため、来年度以降はそれらの点にも注意し授業を進めて行きたい。

英語	「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に指導することで、これら4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成していく。	聞く力：できるだけ多くの英語の音声聞かせ、文字からではなく音声からの英語習得を図る。	4	4	センター試験のリスニングで満点者が19名。他にも9割以上の得点者も多数出たことから考えて、聞く力の指導の成果が出てきている。引き続き音声指導を強化していく。
		話す力：英文暗唱に力を入れ、英語の表現ストックを増やし、自分の口で自らの考えを発信する活動を行う。	4		英文を覚えることが、聞く力や読む力の向上につながり、成果が見られる。今後も座学ではなく、実技教科としての英語を念頭に活動を多く取り入れた指導を行って行きたい。
		読む力と書く力：入試やTOEICを視野に入れながら、英文を「書いているように読み、読んでいるように書く」ように指導する。英文の直読・直解が出来る・まとまりのある段落や文章が書けることを目標に指導していく。	4		読む力の指導は入試があるために重点的に行っている。書く力に関しては読む力に比べてそれほど入試では求められないので、各コースの実情に合わせた指導が必要である。必要な生徒には教員が個別指導を行った。
	英語学習の基盤を作り、生徒が自律的に学習できるような取り組みを学年・教科など学校全体で取り組んでいく。	語彙の習得：学年やコースに協力をお願いし、単語テストを実施したり、プレテスト・再試験を行うなどして基礎的な語彙力を身につける。	5		学年の協力を得て活発に行われ、本校の英語力向上の中心的部分となっている。
		文法の習得：定着・運用のレベルまで行き着くために、課外ゼミと授業を連携させ時間を確保する。	4		文法はなかなか定着が難しい分野であるが、来年度からSZ、SSコースでも1時間授業時間を増やして対応していく。
		動機付け：授業の内容や教材を工夫し、生徒の動機付けを行い、さらに英語検定などの資格取得を目指させることで学習意欲を高める。	5		英検の受験を積極的に勧め、今までは毎年1名の準一級合格者であったが、今年度は4名となるなど合格者数が増加した。
	大学入試科目としての英語を研究する。	実践力の強化：大学入試の出題傾向や出題形式を教員が分析した上で、入試過去問や演習問題を授業内で扱う。	5		各コース、各クラスの担当者が生徒に適した教材や問題を用意することで、入試力の向上に対応している。
		指導力の強化：昨年同様、教員各自が研修会などに積極的に参加し、指導法の改善を行っていく。	4		今年度は若手の教員を中心に研修会に参加したが、時間の許す限りすべての教員が参加するようにしていきたい。

芸術	基礎技術の定着と、生涯を通じて芸術を愛好する心情を養う。	コミュニケーションを図り、個々に応じた指導を重視する。	4	4	基礎力の定着をはかりたい。
	感性を磨き、創造的な表現能力を伸ばす。	意図を把握し、基礎を活用し表現する喜びを感受できるようにする。	4		基礎を活用し、表現力を高めたい。
	鑑賞の能力を伸ばす。	幅広い表現に触れ、そのよさや美しさを味わう。	4		演奏会や展覧会の鑑賞の機会を増やしたい。

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

家庭	人の成長・発達について知り、ともに生きる生活を身につける。	家族・子ども・高齢者など共生社会について理解できるようにする。	4	4	人間の発達と生涯を見通した生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義と社会とのかわりについて理解する。
	将来を見通せる着実で豊かな生活と環境をつくる。	衣食住・経済生活および環境について理解し、実践できるようにする。	5		消費者として、消費・環境について適切な意思決定に基づいて行動できる力をつける。

情報	アプリケーションソフトの操作方法を習得する。	林間学校や修学旅行に関するレポート作成を通してワープロソフトの操作をできるようにする。	5	4	基本的な操作については身につけているが、今後は実用的な技能も習得させたい。
		エクセルの関数を使って計算式を立てたり、グラフを作成したりして表計算ソフトの操作をできるようにする。	4		生徒自らが試行錯誤しながら計算式を立て、グラフを作成する技能を習得させたい。
	情報発信者としての態度、姿勢を身につける。	発表会を通して正しい情報を発信する能力を身につけさせる。	5		今後も自分の考えを相手に分かりやすく伝える能力を身につけさせたい。
	ネットワークを利用する上でのマナーや態度を身につけさせる。	インターネットを利用して、正しい情報収集能力を身につけさせる。	4		インターネット上の情報がすべて正しいとは限らない。正しいことと誤っていることの区別ができるような能力を身につけさせたい。
		レポートに引用先を明記したり、著作権に配慮して要約したりできるようにさせる。	4		複数のウェブサイトのなかから必要な情報を確実に収集し、整理し、組み替える能力を身につけさせたい。

2. 校務分掌

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	総合評価	次年度への課題
教務部	教員の授業力向上に努める。	新課程導入後の入試に対応するために、校外での研修会等を利用し授業力を高める。また、知り得た情報を共有し、全体でレベルを上げる。	3	4	教科によっては、予備校の研修会に参加し、新課程後の入試に関する情報を得る機会があった。今後は、入試にこだわらず幅広い研修会等に参加する機会を増やしたい。
	校内の施設を利用し、学校行事等の充実を図る。	山野内記念講堂や図書室の利用方法を考え、学校・学年行事等に有効利用し、充実を図る。	4		山野内記念講堂を集会や発表の場として利用する機会は増えたが、コースや学級単位でも利用できる多くの機会を考えたい。
	消耗品の削減に努める。	消耗品の無駄を減らし、再利用を心掛ける。また、事務機器を丁寧に扱う。	4		消耗品の無駄を減らす努力は見られたと思うが、事務機械の扱い方をもっと考えなくてはならない。事務機械の故障が多い1年間だった。

生徒指導部	規範意識を持って自主的に行動できる生徒を育てる。	交通ルールやマナーについては、公共の場での責任ある行動について考える良い契機として、また自分の生活を守る大切な規範として捉え、積極的に指導を行う。	4	4	登下校時の駅南大通りの歩行状況については大きく改善した。、自転車利用者に対して、自転車登録の徹底や、駐輪場利用の仕方などの指導を継続的に行った結果、利用状況は昨年度よりも改善された。一方で、交通ルールやマナーの指導については徹底出来なかった部分があり、次年度への課題としたい。また、今年度はTwitterやLINE使用時のトラブルも目立った。情報安全教育については、専門家を招いて講演会を開催するなど、引き続き生徒達への安全指導を継続していきたいと考える。
	生徒会活動、各種委員会活動を充実させ、生徒達が自主的に取り組む機会を増やし、部活動を含め勉強だけではなく学校生活を組み立てるようにする。	生徒会、各種委員会活動等の自主的な活動を活性化させる。野球応援、外部団体の行事への積極的な参加を通して外から学校を見る視点を養い、愛校心を養う。	4		水城祭や野球応援などのイベントでは、自主的に活動する生徒達の姿が目立った。日常の生徒会活動をどのように活性化させるかが次年度の課題である。
	基本的な生活習慣を確立させ、充実した学校生活を送る基礎を作る。	教職員の共通理解のもと、足並みの揃ったきめ細かい生徒指導体制を確立し、いじめや問題行動には迅速に対応する。	4		頭髪や服装の指導など、ある程度教職員の共通理解のもとで指導ができたと思う。いじめや問題行動に対しては、今後とも迅速な対応に努めていきたい。

進路指導部	生徒の潜在能力を最大限に引き出し、実力を伸ばしていく学習環境の提供。	難関大学入試対応型から大学生による基本講座まで、生徒の希望と実情に合わせた多彩なゼミを開講する。成績上位生徒には校外模試(『東大入試実践模試』等のいわゆる『冠模試』)を積極的に受験させ、より高い目標を持たせるようにする。	4	4	コースや学年によって講座の充実度にバラつきが生じた。特に冬期ゼミは年末の12月27日(土)まで実施しているため、出講を嫌がる教員が少なく、結果的に開講すべき講座が講師不足のために開講できなくなるケースがあった。ゼミに対する教員の意識が必ずしも高くないことに、進路指導部としては少々危機感を感じている。
	進学関連情報の積極的な発信。	進路指導室の整備と資料(各大学の資料・進学情報誌・赤本等)のさらなる充実を図る。進路講演会やPTA研修会を通じて、現在の受験制度や本校の実情等についての情報を保護者に伝える。本校HPの資料アーカイブを活用し、主要国公立大学/私立大学のオープンキャンパス情報や各大学の一言PR等を随時アップし、受験校選択の参考に供する。	5		赤本やパンフレットに加えて、主要大学の入試要項(願書)も入手して生徒の参考と利用に供した。ここ数年で進路指導室の資料はかなり充実度が増し、生徒のニーズにきちんと応えられるようになってきている。各種講演会やPTA研修会、本校HP(資料アーカイブ)等において、入試に関する情報を十分に発信することができた。
	自らの進路を自らの手で探求する姿勢の涵養。	テレメール等の資料請求のツールや各種進学情報関連サイトを紹介し、生徒が上級学校について自らの手で調べることができるようにする。進路指導室に教員が常駐し、いつでも生徒に助言ができる体制を整える。	5		各種資料請求ツールの利用方法や進学情報サイトの活用方法は生徒の間に十分浸透している。進路指導室の教員常駐体制も確立され、来室する生徒の数は3年生を中心にかなり増えている。

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

保健環境部	社会貢献への意識向上を深めさせる。	ペットボトルのキャップ回収を行い、NPO法人世界の子どもにワクチンを 日本委員会へ寄与する。 3年生による赤十字血液センターへの協力をする。	4	4	キャップ回収率の向上を図っていく。
	衛生活動、美化活動の充実。	各委員会による校内施設の点検、不備報告の充実化。	4		保健委員、美化委員による校内点検活動を継続し、さらに綺麗な状態を目指していく。

渉外部	PTA役員選出の仕方を単純化する。	PTA本部役員及び学年委員・支部委員等の選出が単純、円滑にいくよう、必要に応じてPTA会則を見直す。	4	4	PTA組織同士が縦や横の連絡を密に取り合い、人とのつながりを通して、それぞれの組織の役員選出が円滑になされたり、PTA活動に継続性を持たせたりするようにする。
	PTA会員の声を広くPTA活動に反映させる。	視察研修や講演会等の企画内容について、ウェブ上のアンケートシステム等を利用してより多くのPTA会員の意見や希望をPTA活動に生かす。	4		常任委員会や各種委員会・ウェブ上で、PTAで企画を希望する行事・活動を汲み上げたり、実施した行事・活動に対する意見・感想等を発表したりして、さらに保護者・生徒の声をPTA活動に反映させていく。
	開かれたPTA活動を推し進める。	生徒会とPTA本部役員及び教職員等との懇談会を行ったり、研修会に積極的に参加し、そこで得た情報を共有したりして、学校改善に生かす。	4		生徒会役員とPTA本部役員との懇談会は、この数年間ですっかり定着したが、生徒を取り巻く社会状況や生徒の実態等を踏まえてその時々の問題を提起・検討し、生徒が充実した学校生活を送れるようにする。

生徒募集部	志願者4000名を確保する。	50周年事業の一環として完成した新校舎・記念講堂などの設備を十分に活用し、夏の見学会を成功させる。	3	3	より幅広い受験生に本校の魅力をアピールする
	定員を満たす入学生を確保する。	大学合格実績、各部活動の実績をPRし、学校全体のレベルアップを図る。	3		本校を第一志望とする受験生を増やす
		中学校、塾との関係を綿密なものとするため、中学校教員説明会、塾教員説明会、中学校学年説明会を抜かりなく行う。	4		受験生だけでなく、保護者・教育関係者の本校への理解をより深める

システム管理室	『すごい』システムを『あたりまえ』に提供する。	システム開発関連 教職員用の身分証・ネームタグや生徒証のシステム化を行う。 仮想環境下に現実環境と同等のサーバ群を構築し、システム開発や動作テストを仮想環境で行なうことで、現実環境下での問題点や安全性を実証できるようにする。	5	5	Windows10が2015年後半にリリースされるのにあわせて、教員用ノートパソコンや生徒用パソコンのリプレースに向けた各種調査・準備・導入を行う。
		セキュリティ関連 セキュリティ・ネットワーク監視関連のシステムの見直しを行い、より適正なネットワーク環境へと改修する。 生徒用ネットワークのウイルス対策サーバをバージョンアップし、それに伴う情報教室管理システムとの連携状態を再構築する。	5		2014年度の大規模なネットワーク構成の変更により、通信環境が改善されたが、セキュリティ的に堅牢さを保ちつつ良好な通信環境が保たれているかを引き続き監視していく。
		啓発関連 ホームページへのクラブレポートや行事レポート、資料アーカイブへの各種資料の登録はここ数年でとても活性化でき、その利用数も飛躍的に伸びているが、それを有効に活用できていない部署も見受けられるので、そこに集中して有効活用の方策を提案していく。	5		今まで、各部署が行っている紙ベースで行っていた各種の出欠調査や申込みの処理を、資料アーカイブ上で行うように各方面に徹底させていく。

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

3. 学年

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	総合評価	次年度への課題
1学年	ベネッセスタディーサポートの学力(GTZ)ゾーンを、2年初めには、各コースともワンランク上昇させる。授業を中心とした基本的学習習慣を確立させる。	・朝自習、放課後自習、ゼミなどを利用し、学習時間を確保させる。予習・復習・課題・定期試験への取り組みを通して、授業内容の定着・深化を図るべく、学習方法を示し、実践させる。	4	4	朝自習の定着が実現できている。放課後自習については、各コースの実情に合わせた形で、それを促し、集中的に学習に取り組ませている。学力ゾーンの向上については、現在、継続努力中である。次年度にむけては、より自立した学習への取り組みを促し、高い学力を身につけさせていきたい。
	将来就きたい職業、進学したい大学・学部などの目標をできる限り具体的に設定させ、適切な文理選択を行わせる。	・清掃活動などの日々の学校生活、部活動などの特別活動、学校行事への参加を通して、社会の一員としての自覚を強めさせる。キャリアガイダンスや『仕事紹介』を通じて、職業や進路についての知識を獲得させる。	4		年間計画に沿った進路行事、頻繁な生徒との面談を通して、進路意識を高め、適切な文理選択を行わせることができた。進路行事・面談の計画時期・内容などについて、一部見直しを図るべきものがある。
	基本的学習習慣を確立させ、前向きな学校生活を送らせる。規範意識を養い、校則を遵守する意識を強く持たせる。	・欠席・遅刻・早退に対して、迅速に対応し、それらをできる限りなくすように努力する。服装の乱れや忘れ物、授業態度不良などの兆候を早目に捉え、指導する。丁寧に、徹底的に指導することで、確実に課題を克服させる。	3		欠席が目立つ生徒への個別対応を強める必要がある。特に休み明けの欠席者が多いので、生活を自ら律することができている精神的な強さを身につけさせたい。ネット環境の利用の仕方について問題を抱える生徒が多く、啓発・対策が必要である。

2学年	授業をとおりて確かな学力を身につけさせるとともに、自ら課題を設定し、より高い学力を身につけようとする姿勢を養う。	引き続き意欲的に授業に取り組ませると同時に、予習や復習などの家庭学習を習慣化させる。また、朝自習の内容を充実させ、基本的な知識の定着を図るとともに、自ら計画を立てて実行する自主的な学習スタイルをさらに定着させる。	4	4	入学時から授業の大切さを継続して訴えてきたこともあり、全体的には落ち着いた授業態度で意欲的な取り組みが見られた。早い時期から受験を意識させ、自主的な学習スタイルの確立を促してきたが、全体に浸透するにはもう少し時間が必要である。特に2年次最後から3年次スタートの時期を引き締めて指導していきたい。
	進路意識をさらに高め、進路希望を実現するために具体的に行動できる力を身につけさせる。	進路講演会や大学出張講義などをとおして、自己の進路についての意識を高め、大学見学や資料収集など具体的な行動につなげるように指導する。LHRや学年集会に加えて二者面談や懇談会を実施し、適切な助言を与える。	5		計画的に進路関連の行事を実施し、進路意識を高めることができた。夏休みにはオープンキャンパスに参加する生徒も多かった。冬期休業中には三者面談を実施し、将来の希望を確認した。今後さらに個々の生徒の状況に応じたきめ細かな進路指導を行い、希望進路の実現を図りたい。
	中堅学年としての自覚を持たせ、道徳心をもった自律ある行動を促すとともに、校外内における礼儀、マナーの向上を図る。	引き続き服装容儀、挨拶、清掃等の指導を徹底して行う。また、「水城高校の中心」として下級生の手本となるような責任ある行動を普段の生活や学校行事の中で実践させるとともに、マナーや道徳心をさらに磨き、地域や社会に貢献できるように育成する。	4		全体的には、中堅学年としての自覚を持ち、昨年度より落ち着いた生活を送ることができた生徒が多かったが、前半にいくつかの問題行動があったのが大きな反省点である。担任・学年・生徒指導部で連携を取って、問題行動を未然に防ぐ指導を徹底できればなお良かった。マナーや道徳心の向上についても引き続き力を入れて指導していきたい。

3学年	生徒が自ら課題を持って主体的に学習に取り組み、さらに高い学力を身につけようとする姿勢を育てる。	教科や授業担当者と密に連絡をとりながら、希望する大学に合格できる学力を身につけさせる。指示されなくても、常に学習に取り組んでいく姿勢をさらに高めるように指導を行う。	4	4	授業や朝自習など、クラスによって多少のばらつきはあったが、自主的に学習に取り組む姿勢が向上していると感じられた。今後は、学年そして学校全体として学力向上のための指導方法をさらに研究していくことが課題である。
	生徒がこれまでの進路研究で設定した目標を、具体的に実現させる。そのために適切な進路指導と助言を行う。	進路指導部と連携して進路説明会や集会を計画的に実施し、必要な情報を提供するとともに、個別面談を数多く実施して、生徒の状況に応じた適切な指導と助言を与える。	5		進路指導は適宜必要な情報を全体集会や個別面談で生徒に与えることができたが、さらに一人ひとりの生徒にきめ細かい対応をしていきたい。
		学年全体で受験に取り組む意識を高めさせ、まわりの生徒から刺激を受けながら受験勉強に取り組む環境を与える。	4		推薦やAO入試で早く進路が決定する生徒も最後までしっかり学習に取り組ませ、学年全体の緊張感や受験に向かう雰囲気を持続していくことが課題である。
	社会人として必要な道徳心や礼儀、その場に応じたマナーが自然に実践され、社会や地域に貢献できるような態度を養う。	生徒指導部の方針に沿って指導や講話を行い、規範的な行動や相手の立場に寄り添った行動を普段の生活の中で実践させる。	4		ほとんどの生徒は基本的な道徳心や礼儀・マナーを身につけることができているが、一部の生徒には問題行動も見られた。社会の一員として自覚と責任を持った行動がさらにとれるように、粘り強く指導をしていく必要がある。

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない